

事業報告書

令和3年度

社会福祉法人 福鳳会

社会福祉法人福鳳会

概況及び基本理念

<はじめに>

基本理念の下、敬老愛護、お客様ファーストの実現に向けて、他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化、職員の資質向上への取り組みと職場環境の改善に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対策に努めるとともに、本館及び新館の個室化、大規模改修に着手した。

《敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立》

- ◎ 他に少ない、価値のある、特色ある安心のサービスの充実強化に努めた。
 - ・ 高志の郷拠点のサービス充実に向けて、令和3年10月に高志の郷居宅介護支援事業所を新設するとともに、拠点周辺の市街化地域の多様なニーズとサービス付き高齢者向け住宅高志の郷との連携を起点とした新たな訪問サービス系事業所の新設に向けた準備を進めた。
- ◎ 入居者の生活環境改善と新型コロナウイルス感染症対策を考慮した大規模修繕に着手した。
 - ・ 入居者のプライバシーや生活環境の改善、職員の働きやすさ、感染対策の向上に関して一貫した基本方針として策定した「改築・改修に関する基本方針（以下、「基本方針」という。）」に基づいて、令和2年に竣工した西館「いこい」に続き、令和4年中の完成を目途に、特養全居室の個室化や設備の更新など本館及び新館の大規模改修に着手した。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症等感染症対策については、ソフト面の対策に努めるとともに、基本方針に基づいて、特養長期入居者と短期（ショートステイ）入所者を分離し、ショートステイを本館2階に集約するとともに、外部との接触の多い部門や機能を本館1階に集約する改修に着手した。

《職員の処遇改善と職場環境の改善》

- ◎ 職員の成長や能力向上努力と給与体系との連携の強化を進めるとともに、令和4年2月に新設された国の介護職員処遇改善支援補助金により多職種の職員の処遇改善を図った。
- ◎ 職場環境の改善に努めた。
 - ・ ICT、各種システムの活用による情報共有と、データ入力負担の軽減に努めた。
 - ・ 西館「いこい」に引き続き、本館、新館の大改修においても職員負担を軽減するレイアウトや設備の導入に努めた。

事業所数 11事業所

- ・ 特別養護老人ホーム 2事業所、併設型短期入所生活介護 1事業所
- ・ 通所介護事業 2事業所
- ・ 認知症対応型通所介護事業 1事業所
- ・ 訪問介護事業 1事業所
- ・ 居宅介護支援事業 2事業所
- ・ 地域包括支援センター 1事業所
- ・ サービス付高齢者向け住宅 1事業所

職員数 229名 (令和3年度正規職員 採用者数 18名 / 退職者数 11名)

男女比 1 : 3

平均勤続年数 / 平均年齢 9年 / 46.3歳

令和4年3月末現在

基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的にに関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

活動状況



・ 主な活動ポイント

- 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催。

20項目の研修を延べ42日間実施し、延べ714人の職員が参加した。

自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は 4名。

- メルタスファミリー運用開始

面会制限がある中で、日頃の様子やご家族へのお知らせなどが簡単に伝えられるようになった。

遠方の家族や主になる家族以外ともつながることで安心してもらっている。

- 高志の郷居宅介護支援事業所を開設（令和3年10月1日から）

- 本館ショートステイ・面会室、新館2階東・西の改修完了

- 最優秀賞受賞（介護労働安定センター）

公益社団法人介護労働安定センターが、「介護労働者の福祉の増進と魅力ある職場づくり」を目指して雇用管理の改善、能力開発・向上において模範となる取り組みを行った介護事業所を表彰しており、福鳳会は、全国の介護事業所の中から選ばれ令和3年度の「最優秀賞」を受賞した。

社会貢献活動

高校生バスツアー ※コロナの影響により中止	4月	小学生親子バスツアー 
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	

・主な活動ポイント

年間行事計画に基づき実施した。

○ 小学生親子バス教室

富山県社会福祉協議会からの依頼により、福祉について広く知ってもらうために積極的にバスツアーを受け入れた。

コロナ禍の為、利用者様との交流はせずに動画や講義、グループワークを行うことで、福祉に対する理解を深めてもらった。（小学生親子10組21名参加）

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

<事業概況>

○入居者数 従来型 70名・ユニット型 60名

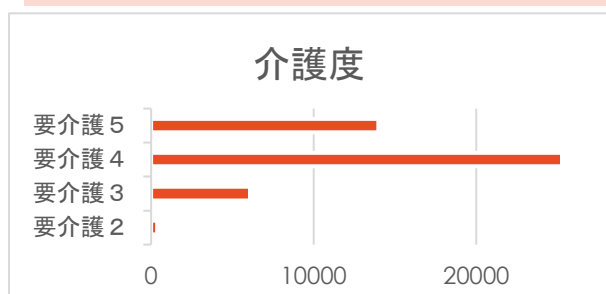
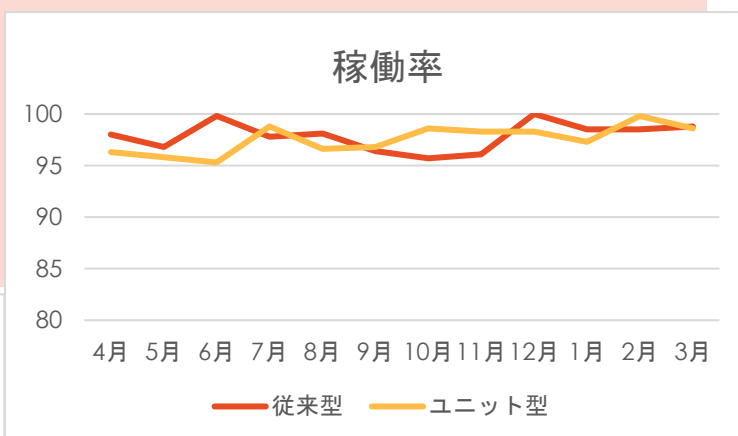
○年間稼働率 97.7%

○年間看取り者数 20名

○年間平均介護度 4.2

○年間平均年齢 87.8歳

○男性：女性 27名：102名



(人)



<活動状況>

サービス向上

◇ BCP 計画作成を随時進めている。そのための研修にも参加をし、具体的な計画になるよう取り組んできた。現在、感染対策が進行中であり、発症者が出た際の対応などについて改めて見直しを行い、実施することで拡大防止につながっている。

業務改善

◇ 排泄介護に対して科学的根拠のある関わりを持つため、統一した評価をもとに記録を行った。LIFE のデータ送信を行った。フィードバックによる評価が今後行われる。これまで行ってきたケア方法等の評価も随時行っている。

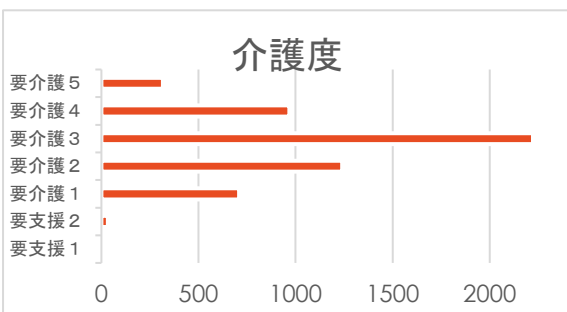
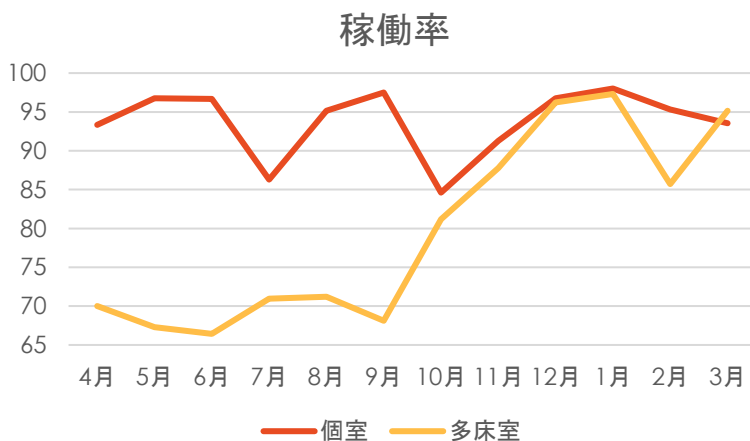
◇ 褥瘡予防・身体拘束に対して、記録と評価を行い科学的根拠のある関わりができる体制を整えた。LIFE のデータ送信を行った。フィードバックによる評価が今後行われる。これまで行ってきたケア方法等の評価・委員会での情報共有も随時行っている。

◇ 排泄用品の見直しを実施し、適正な使用方法を勉強会で改めて周知した。見直しによる経費削減にはまだ繋がっていないが、製品の使用方法等について職員が統一した使用ができるよう適切な標準化を図っていくこととしている。また、科学的根拠のある関わりができるよう、加算取得の要件となっている評価について基準を再確認し、アセスメント・分析・評価ができるようすすめてきた。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑 併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

＜事業概況＞ 定員19名（令和3年11月より）

- 定員数 多床室6名・個室13名
- 年間稼働率 83.7%
- 年間延利用者数 5,654名
- 年間平均介護度 2.8
- 1日平均利用者数 15.5人



＜活動状況＞

(人)

サービス向上

- ◇ 本館での業務が始まり、利用者様に混乱が無いように努めた。必要な物品等、準備不足の部分もあったが、お互いに協力し、対応した。館の異動があり、利用者様の中には混乱されている人もおられたが、概ね良いように受け止められている。
- ◇ 利用者及びご家族の意向確認は随時行っている。Mell+familyに参加してもらえるご家族に対しては積極的に促し、使ってもらっており、活用している。
- ◇ 感染防止に対して、受け入れ時の検温や体調確認、退去時の情報提供を年間通して行っている。
また、利用中に変化が見られた場合は、隔離できる場合はすぐに隔離し、家族等と連携を図りスムーズな受診につなげている。

業務改善

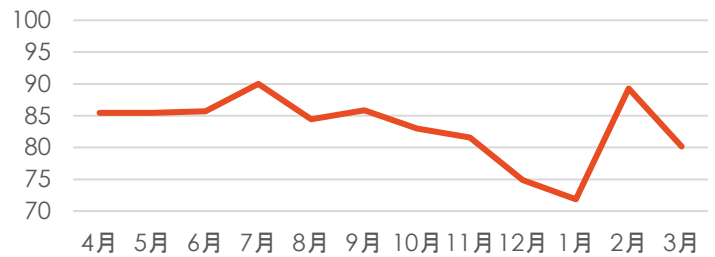
- ◇ 利用者及びご家族の意向確認については、ケアプランや担当者会議、利用時等において随時確認している。介護記録等、随時行っている。ケアプランの立て方や流れなどについては随時見直しを図ってきている。必要な書類の見直し、業務手順の見直しなど今後も随時見直しを図っていく。

鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

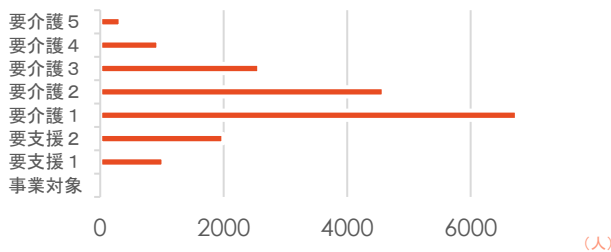
<事業概況>

- 定員数 70名
- 年間稼働率 83.1%
- 年間延利用者数 18,206名
- 年間平均介護度 1.7
- 1日平均利用者数 58.2人

稼働率



介護度



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 冬場に入り、入院者やショートステイ利用者が増えたことにより稼働率が下がった。そのため、新規利用者の獲得を積極的に進めている。コロナ禍のため余暇活動を自粛していたことが魅力ある事業所になっていないことも要因だと捉えている。今後、コロナの感染状況を踏まえて余暇活動を再開し、魅力ある事業所作りを目指していきたい。
- ◇ 理学療法士に加え、柔道整復師が1名加わった。それぞれの専門的な知識を生かし、リハビリを受けることで自宅での生活を持続できるように支援をしている

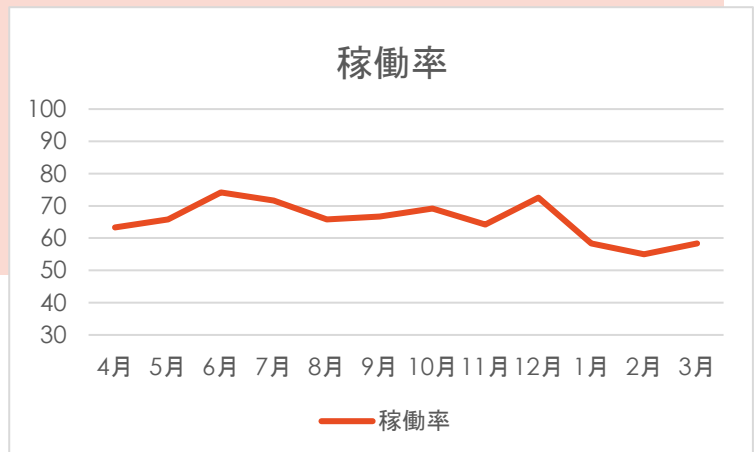
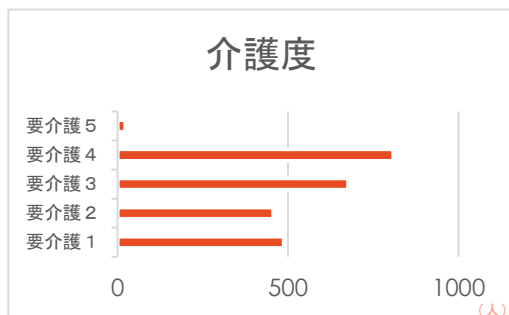
業務改善

- ◇ 専従の生活相談員が2人体制になった。新規利用者の獲得などを更にスムーズに進めていくため、生活相談業務をそれぞれが円滑に進めている。
- ◇ R3年11月より、科学的介護推進体制加算及び機能訓練加算Ⅱを取得した。今後も維持できるように努める。
- ◇ 8時間から9時間の移行については、利用者及び家族の意向を確認しながら随時検討している。

鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

<事業概況>

- 定員数 12名
- 年間稼働率 65.8%
- 年間延利用者数 2,453名
- 年間平均介護度 2.8
- 1日平均利用者数 7.9人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 利用者様の個々の状態の把握、ご家族様の要望等に柔軟に対応し、個別性を重視したサービスを提供できた。しかし、素早く対応できるように送迎時間等を職員全員が把握し連携を図るように努めたがスムーズに連携できていな面も見られた。現在、当事業所送迎車両1台に加え他事業所より軽四1台を借りて個別送迎を行っているが、車両使用に対しての制限がある為、対応が限られてしまう事も要因のひとつかと思われる。
- ◇ 利用者様を敬うような言葉は見られるも、認知症の方を理解できず、症状から導き出される行動からその意味を考える事ができない職員も見られ、職員全員が認知症の方を理解し統一したケアに繋げる事ができなかった。また、統一したケアが行えるよう会議等で周知を行ったが、十分ではなかった。

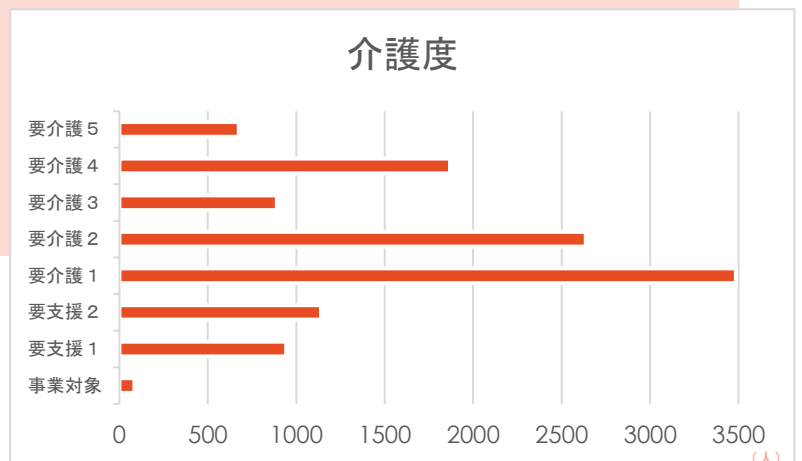
業務改善

- ◇ 1日の利用者数は平均7~8人、年間平均稼働率はおおよそ60%台であり目標を達成できた。
- ◇ 事業所のアピールポイントについては、少しずつ明確化してきている。次年度は、空き情報やパンフレットに記載し、利用者の新規獲得に繋げたい。
- ◇ 月2回の営業活動に力を入れ、広報誌・パンフレット・空き情報・ホームページを活用し新規獲得につなげる事ができた。

鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

<事業概況>

○年間延利用者数	11,722名
身体介護延利用者数	5,098名
生活援助延利用者数	3,483名
折衷型介護延利用者数	931名
その他	2,210名
○年間平均介護度	2.0
○平均利用回数	32.1人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 職員自身の日頃からの感染対策に加え、利用者がどのような行動をとり、どのような人との接触があったか等、状況や情報の収集に努め、持ち込まない、持ち出さない、未然の対策に努めた。
- ◇ 祝日は職員3人体制で対応し利用者のニーズに出来る限り応えている。
- ◇ 援助中の様子や情報を伝えていく中で変更申請をされるケースも増えてきた。継続して総合事業の利用者の受け入れを継続していく。
- ◇ 利用者の状態変化等追加の援助が必要と感じるケースには追加訪問を提案し、緊急的に訪問を希望された場合も対応している。

業務改善

- ◇ サービスに入る職員が限定的になるケースもあり、利用者の希望や受け入れが難しいこともあり、援助内容や訪問回数の変更等提案し可能な限り長く利用して頂けるよう努めている。
- ◇ ワイズマンでの週間勤務の作成、実績入力を行った。まだ調整の段階ではあるが少しずつ軌道に乗せていきたい。

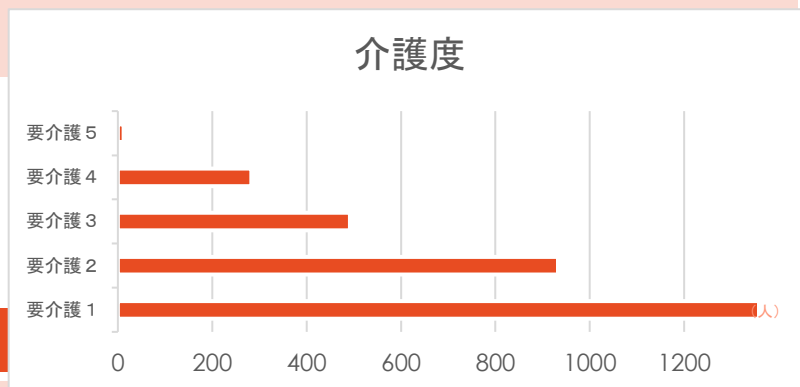
鳳鳴苑在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

<事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 3,270件

○月間一人当たり作成件数 30.3件

○年間認定調査件数 228件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 報酬改定で通院時情報連携加算が追加されたことによって、より介護支援専門員が医療機関と連携する機会が増えたと実感している。また、訪問診療時の同席を積極的に推進した結果、当事業所の介護支援専門員の姿勢を高岡市内の訪問診療関係医師から評価されている。
- ◇ 予防プランは、必要に応じて受託し、各地域包括支援センターとの連携を図った。
- ◇ 新規利用者を受け入れる人員が不足していたことから、今年度は相当数断った。人員増員することで、新規利用者を受け入れ、地域の実情に合わせたケアマネジメントができるよう、職員育成に努めていく。

業務改善

- ◇ 7月頃から新規の受け入れを抑制し、新しい居宅介護支援事業所の立ち上げの準備をした。10月以降も担当利用者数は確保できたが、昨今の地域の情勢から、必ずしも当事業所の拠点より近い利用者を中心に受け入れできたわけではなく、断ることも多々あった。
- ◇ 各々の介護支援専門員が利用者の様子を逐一確認することで状況把握ができ、自立支援や重度化防止に努めることができた。また、ICTの活用については、タブレット端末の使用を開始した。オンライン研修用の操作の練習を行ったことで、臆せず研修参加しつつあり、ITリテラシーの向上にも繋がった。

木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

<事業概況>

○年間相談件数 2,491件

○1日平均件数 9.3件

<活動状況>

サービス向上

- ◇ 令和3年度の目標に沿い、地域包括ケアシステムの構築を推進する為、地域や関係機関との連携強化・充実を目指し、以下の3項目について取り組んだ。
- ◇ 「通いの場」を活用した介護予防事業の推進
- ◇ 認知症バリアフリーの推進と早期発見・早期対応の強化
- ◇ 住民が支えあう地域づくりの推進

推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

- ◇ 包括的支援事業

地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業

地域ネットワーク構築事業

- ◇ 地域ケア会議推進事業

地域ケア会議開催業務 年10回

- ◇ 生活支援体制整備事業

高齢者が多様な生活支援・介護サービスが利用できるような地域づくりを目指し取り組んだ。

情報誌の作成：12月末に5300部配布

- ◇ 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防ケアマネジメント事業・一般介護予防事業・地域における介護予防活動支援

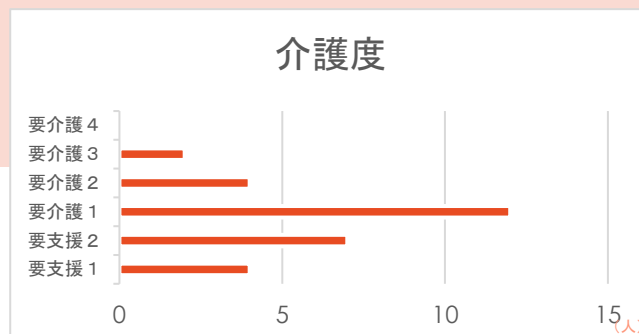
サービス付高齢者向け住宅高志の郷

<事業概況>

○居室数 45室

○令和4年3月末時点

入居数43人 42室（空3室）



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 年間の入居率95%以上を達成できた。退去者が重なる月もあったが、新規入居者の確保により達成した。
- ◇ 日々の安否確認や生活相談の実施により入居者の皆様の状態や要望・苦情を把握し、ご家族様等や介護サービス関係者等と連絡・連携を取り、適切で要望に沿った介護サービス等の提案・提供を行い高志の郷での生活サポートに努めた。
- ◇ 林内科医院（林治朗先生）より、往診や緊急時の対応など医療面でサポートを得た。
- ◇ 高志の郷デイサービスセンター看護職員による無償健康相談を月2回実施し日々の健康不安の解消に努めた。

業務改善

- ◇ 施設整備について、日頃から点検を行い破損箇所や危険箇所は速やかに修繕等を行い入居者の皆様の安全の確保、利便性を損なわないように努めた。
- ◇ 令和3年4月及び11月に火災避難訓練を行い、職員全員で入居者及び利用者の皆様の安全を確保出来るように努めています。また、新たに水害について対策マニュアルを整備し高志の郷全体での訓練を予定している。

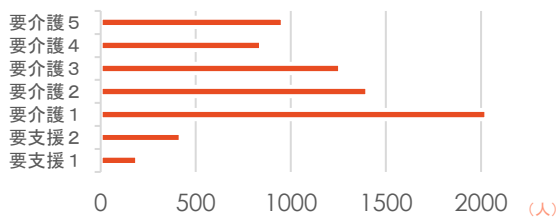
高志の郷デイサービスセンター

<事業概況>

- 定員 30名 営業日数 313日
- 年間稼働率 75.6%
- 年間延利用者数 7,100名
- 年間平均介護度 2.4
- 1日平均利用者数 22.7人



介護度



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 7月より稼働率がほぼ80%台を維持し、累計においては77.8%。
- ◇ 総合事業においても昨年度に比べ利用者が増えた。寝台浴対応が可能となり、利用者の受け入れ幅が広がり重度の利用者数が増えたことと、これまで利用されている方が重度化しても当デイで受け入れ続けることが可能となったことで利用者が他事業所に流れてしまうことを防げるようになった。

業務改善

- ◇ 定期的に生活相談員と管理者が各事業所に空き情報を持って営業活動を行った。
- ◇ 現在、月に2回デイサービス看護師によるサ高住入居者に対しての健康相談を実施した。そこで得た情報をサ高住職員に提供し、入居者が安心して日常生活が送れるよう生活の質の改善を図る手立てにしている。
- ◇ 来年度にデイサービス職員がサ高住業務の一部を担う（日直業務）ことを前提に、サ高住業務体験を11月より実施した。サ高住と併設している特徴を生かして、協同した運営に取り組んでいる。
- ◇ 定期的にデイ合同会議を実施し質疑応答を交わし、福鳳会の通所事業所としての足並みが揃った事業運営の実施に取り組んでいる。
- ◇ 福祉用具の活用（スライディングボード、回転盤等）を行い環境の見直しを図っている。

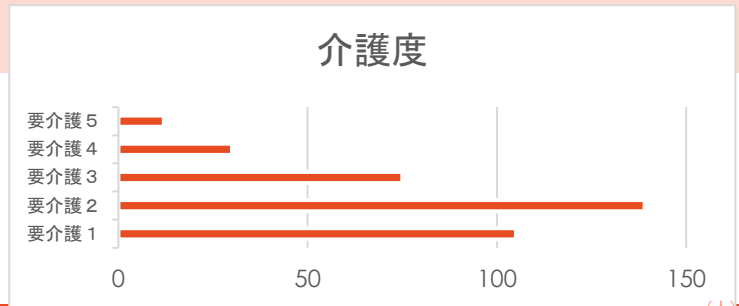
高志の郷居宅介護支援事業所

<事業概況> (令和3年10月開設)

○年間ケアプラン作成件数 355件

○月間一人当たり作成件数 29.9件

○年間認定調査件数 19件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 地域包括支援センターや医療機関などからの紹介を受けて積極的に担当するよう努めた。
- ◇ 利用者ができることは継続してできるよう自立支援の視点をもったケアプランを作成し、医療関係者ともこまめに連絡を取り合い、重度化防止に努めた。
- ◇ 感染症や災害が発生した場合であっても業務が継続できるよう、法人内の関係委員会に参加し、関係研修について、できる範囲で参加できるよう努めた。

業務改善

- ◇ サービス付き高齢者住宅入居者が要支援から要介護になることで、担当の依頼を受けることもあり、今後も増えていくと予想される。複数の地域包括支援センターからの相談も多数受けたが、相談の受け付け時期や担当件数の兼ね合いもあり、断らざるを得ないケースも数件見られた。今後も、当事業所の拠点から近い地域の利用者を積極的に担当することで、信頼関係を構築し、地域に密着した事業所運営に努めたい。
- ◇ 予防プランについて、必要に応じて受託し、各地域包括支援センターとの連携を図るよう努めた。今後サービス付き高齢者向け住宅入居者からの相談は増えていくと思われ、柔軟に対応していきたい。